

語研便り

大東文化大学 語学教育研究所広報 (2024 年 11 月)

研究発表会のお知らせ

2024 年度、第 3 回研究発表会を下記のとおりオンラインで開催いたします。
ふるってご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

記

日 時 : **2024 年 11 月 18 日(月) 午前 11 時 00 分～**

参加方法 : 本発表会は学内限定で Zoom を使用して開催します。
Zoom の URL、ミーティング ID 等は別途メールでお知らせします。
ご不明な点は、語学教育研究所までお問い合わせください。

①発表者 : **小野 尚之 先生 (外国語学部 英語学科)**

題 目 : 語彙の創造性—日英語の重複語形成から—

②発表者 : **野澤 督 先生 (外国語学部 英語学科)**

題 目 : 廃墟に向く目線

—デュパティの描くポンペイ、ヘルクラネウム、パエストウム

③発表者 : **ショーン ディヘヴン 先生 (外国語学部 英語学科)**

題 目 : 新しいメディアにおける政治風刺 :

日本の YouTube 政治コメディアンの視点と分析

※概要は裏面です。

①発表者：**小野 尚之 先生 (外国語学部 英語学科)**

題 目：**語彙の創造性—日英語の重複語形成から—**

概 要：本発表では、語が生まれる仕組みについて考えてみたい。日本語にも英語にも同じ名詞を繰り返す重複語（疊語）という語のかたちがある。今回取り上げるのは、「コーヒー コーヒーしたコーヒー」のような表現と coffee-coffee のような表現である。両者には、口語的にしか用いられない表現であることや、それぞれの語彙の中で例外的な特徴をもつといった共通点がある一方で、生産性や表現する意味の範囲に違いが見られる。そのような違いがあるのは、この重複語の元になった語形成が異なるからであり、さらにそれは、両言語における語形成の構造的な違いに結びついているということを論じる。

②発表者：**野澤 督 先生 (外国語学部 英語学科)**

題 目：**廃墟に向く目線**

—デュパティの描くポンペイ、ヘルクラネウム、パエストウム

概 要：1785年にフランス人の法律家デュパティはイタリアを旅行して、その旅を記した書簡をまとめた旅行記を発表している（『イタリアに関する書簡—1785』、1788）。この旅行記は当時よく読まれたことで知られている。本発表では、ロマン主義的テーマのひとつである廃墟をキーワードに、デュパティが南イタリアのポンペイ、ヘルクラネウム、そしてパエストウムで何を描いているのかを報告しながら、旅行者が視線を向けた廃墟に何を見ていたのかを考察する。

③発表者：**ショーン ディヘヴン 先生 (外国語学部 英語学科)**

題 目：**新しいメディアにおける政治風刺：**

日本の YouTube 政治コメディアン の視点と分析

概 要：In recent years, Japanese comedians dealing with political humor have bypassed traditional media for new media such as YouTube. This study looks at these comedians, their perspectives, motivations, and analyses the content and style of their comedy.

近年、政治的ユーモアを扱う日本のコメディアンは、従来のメディアを飛び越えて、YouTube などの新しいメディアに進出しています。この研究では、これらのコメディアン の視点、動機などに注目し、彼らのコメディの内容とスタイルを分析します。

以上

[問い合わせ先] 語学教育研究所 E-mail : daitogoken@gmail.com